

## 特集「南九州の温泉」の背景

### 1. ま え が き

「温泉科学」編集委員会 西村 進

今年度の「日本温泉科学会第60回大会」は鹿児島で開かれることになった。さて、南九州は地溝部のところどころには負の重力異常のカルデラの存在が知られている。このカルデラ活動時に多量のシラス噴出物があり、その後安山岩の成層火山が生じている。地溝部には、地熱活動が盛んで、高温泉も多く知られている。それでいて、東北地方で見られるようなソレイアイト系、高アルカリソレイアイト系、アルカリ玄武岩系の幅の広い火山活動に伴うような地熱・温泉活動が見られない。この様に特徴のある南九州の活動の背景を探るため、特に南九州の地質・地質構造に詳しい鹿児島大学小林哲夫氏と熱構造に詳しい産総研の阪口圭一氏に寄稿をお願いした。お二人とも日本温泉科学会の会員ではないが、小林哲夫教授には大変な力作をまとめていただき、特に新しい知見を紹介して頂いた。また、阪口圭一氏には、南九州の熱構造をまとめて頂いた。しかし、両氏とも多忙の中無理に原稿の執筆をお願いしていたため、入稿が非常に遅れ、特集であるので特別に査読は省略し、編集を進めた。阪口氏原稿は事情で入稿が間に合わなかったため、大会には別冊で会員の皆様に届けることとした。

今回、公募に応募があったのは木川田他と西村進であった。木川田喜一氏は、とくに小坂丈予先生の温存されていた若尊カルデラの海底熱水活動にともなう噴気ガスの貴重な分析データをまとめられた。西村は沈み込むスラブの状況と地熱・温泉活動をまとめようと南九州と類似のスマトラの火山活動・地熱活動の知見を絡めて説明しようとしている。これらの原稿は査読を通常どおり行った。査読者に感謝する。

このような特徴を持つ南九州の地熱活動を一般的の性質、南九州の特徴のある温泉・地熱の性質を話題として提供していただき、本大会の南九州の個々の講演・ポスター、巡検の議論に参考になればと考えている。

特集は

- ① 南九州の地質・地質構造と温泉 小林哲夫 鹿児島大学
- ② 南九州の熱構造 阪口圭一 (独)産業技術総合研究所
- ③ 鹿児島湾北部若尊カルデラ海底熱水活動に伴う噴気ガスの化学組成  
木川田喜一 上智大学理工学部  
小坂丈予 東京工業大学名誉教授  
大井隆夫 上智大学理工学部  
橋本 惇 長崎大学水産学部
- ④ 南九州の地熱活動と沈み込みプレート  
—南九州とスマトラの地熱・温泉の類似性から—  
西村 進 NPO シンクタンク京都自然史研究所

である。